

瀬戸の都のウォーターフロントのにぎわい

この夏、瀬戸内海国立公園指定80周年記念として、県を主体とした実行委員会主催の香川ウォーターフロントフェスティバルが開催され、サンポート高松周辺は大変にぎわいました。メインイベントは、海水を吹き上げて作られた巨大なウォータースクリーンでの映像作品の上映です。平家物語の源平屋島合戦を題材にした作品、スマートフォンをリールに見立て、ぐるぐる回しながら魚を釣り上げるゲーム感覚の作品、『美』の書を水の空書に仕立てたもの、それに無数のカラスが飛んで色彩豊かな花に変わるデジタルアートの新作が海上で展開されました。

作品を制作したチームラボ代表の氏によると、高松の海でやるからこそその意義があるものにしたいと考えた、ということです。まさに、源平屋島合戦は、約830年前にこの海で繰り広げられた場面を現代に再現したもの。ダイナミックな映像に最後は琵琶の音色が流れ、「もののあはれ」さえ感じることのできる作品でした。また、大人も子どもも夢中になった釣りゲームで、最後に釣り上げられる妖怪魚のもこの海の歴史につながっています。保元の乱に破れて讃岐に流された方の武士 父子が瀬戸内海で激しい嵐に襲われた時、上皇の（神の使者）である鰐鯨と白いが現れて彼らを救った、という言い伝えがあるのです。このように、その場所の持つ歴史性と特質を十分に踏まえ、高度な技術を駆使しながらアートとエンターテインメントを見事に融合し、優れた作品に昇華させたチームラボの創造性に脱帽し、感謝します。

サンポートのベイエリアで同時期に開催された、音楽と食と大道芸のイベント「真夏の夜の夢 THE CARNIVAL」も大好評でした。ステージでは音楽やパフォーマンスの楽しいショーが繰り広げられ、美味しい料理と飲み物を提供する屋台が並び、大道芸の達人達が雰囲気盛り上げました。「高松は文化度が高く、地方都市の港でこの夜のにぎわいは素晴らしい」という県外客の声も聞かれました。

あのウォーターフロントの心地良い喧噪が一過性の夏の夜のはかない夢に終わらないよう、今後の継続した展開について、関係者と相談してまいりたいと思います。